

Take Free

ご自由にお持ちください

青森で生きて死ぬことを想う

めめんと青森

memento aomori



特集 未来志功
棟方志功×青森

No.8
2023
October

平安閣 CASITA みおくり屋 いのりのいおり



ごあいさつ

4年ぶりにねぶた祭りも全開。猛烈に暑すぎる夏も終わり、ようやく実りの秋を迎えようとしています。リンクモアでは5月にワンルームスタイルの安置施設「いのりのいおり」、6月には「リンクモアエンバーミングセンター」をオープンいたしました。エンバーミングは、ご遺体を保全する技術です。青森県ではじめてとなる施設で、まだご存知の方は少ないと思いますが、あわてない葬儀をお望みのお客様から予想を上回る多くのご要望をいただいています。

また、9月には来年グランドオープンを目指し新本社工事が始まりました。地域の人々がくつろぎ、時にコンサートや文化的な催事や展覧会を開くことができるオアシス機能。そして、葬儀時のみならずお客様の暮らしを繋ぐLCC(リンクモアコンタクトセンター)機能など、リンクモアスタッフの仕事環境を向上させるだけではなく、青森をもっと元気にするための機能を備えています。

今回のめめんと青森では、巻頭の座談会で生誕120周年を迎えた棟方志功談義に花を咲かせました。さらに座談会と青森の人で、第5代ねぶた名人千葉作龍さんにダブルロールでご登場いただいています。棟方志功のこと、ねぶた師のこと。青森の誇りを少しでも、お伝えすることができれば幸いです。

めめんと青森 No8 刊行いたします。みなさまの青森での暮らしの糧やヒントになれば幸いです。

株式会社リンクモア
代表取締役社長

ふなはし もとゆき
船橋 素幸





一同志功眼鏡で

【 特集 | Feature 】

未来志功 棟方志功＝青森

座談会

ちば さくりゅう
千葉 作龍

ねぶた名人

のざか てつお
野坂 徹夫

画 家

きよかわ しげと
清川 繁人

青森大学教授

ふなはし もとゆき
船橋 素幸

リンクモア
代表取締役社長

今年は、棟方志功生誕 120 年。青森県立美術館では、これを記念して大規模な回顧展「メイキング・オブ ムナカタ」が開催され、多くの観客が訪れ注目を集めました。また、青森の棟方志功記念館が今年度で閉館することが報じられると、閉館を憂えた市民から閉館中止を求めた署名運動が起こり、8月末の時点で1万7千筆もの署名が全国各地から寄せられました。今、棟方志功という芸術家へ人々の想いが発露しています。志功をこよなく愛する方々に思いを語っていただきました。

船橋 かつて、家庭や会社がうまく行かなくて、落ち込んでいた時期がありました。そんな時に、棟方志功記念館に行ったら、棟方志功さんの天真爛漫な笑顔が迎えてくれた。とても助けられたという思い出があります。また、その近くの平和公園。リンクモアで清掃しに皆でいくのですが、「天宇受売命」（あまのうずめのみこと）之像というシェーのポーズをした銅像がある。よくみたら志功さんが原画を書いて、それをむつ市出身の友人



天宇受売命之像

古藤正雄さんが彫刻にしたとある。ねぶたのハネトのように踊って天の岩戸をアマテラスに開かせ、太陽を連れ戻したアマノウズメの像は、青森を元気にしたい、光を与えたいという志功さんの想いが込められている。そんな志功さんのポジティブな精神に魅了された。

千葉 幼少の頃から周りに芸術家がいた。

ねぶた師であり画家であった父親は、棟方志功や松木満史と親しかった。古藤正雄には叔父が師事していた。松木の東京の下宿には棟方、古藤が居候していた。



千葉氏

下澤木鉢郎は、私の最初のねぶたの題字を書いてくれた。棟方志功は酒を飲まなかったが、うちに集まってきた絵描きは、酒を飲んで、自己主張が強い。そして貧乏。そういう中で初心を貫徹して仕事を成した志功のことを尊敬している。自分が一生をかけてねぶたを作った原動力になった。そして志功はねぶた好き。作品の色彩はねぶた原点だといっている。親近感をずっと感じてきた。長部日出雄「鬼が来た」がテレビドラマになった時に、志功が敬愛していた棟方忠太郎という親戚のねぶた師の役でちょっと出た。もう赤の他人とは思えない。

野坂 共通点は志功さんと同じ絵描きということか。国際芸術センター青森で「思考眼 志功を思考する」という企画展

に参加した。版画家、画家、デザイナー、映像作家など、多様な作家たちが棟方志功にオマージュを捧げた。自分は志功の裏彩色の手法に着眼して 紙のレリーフを作り、裏に色をのせて光が反射して映るようにした。自分は志功さんのように社交的ではないが、とても大きなエネルギーをいただいている。



野坂氏

棟方志功は忍者の末裔？

清川 津軽藩の忍者について研究をして文献を読んでいると忍者の家系に多く「棟方」の姓が出てくる。

調べていくと奈良時代には「胸形」と書かれる歴史のある家。津軽為信に請われて棟方氏は1591年に野内に住み始めた。その子孫ではないかと推測している。忍者と言っても漫画やテレビで見るとはならず、今日で言えば警察のような存在。志功の家では不動明王を拝んでいたというが、忍者が信仰していたのも不動明王。そんな棟方氏の系譜、外ヶ浜

総支配頭、棟方右衛門定家は今で言えば青森市長。

野坂 よく調べました。
船橋 ファミリーヒストリー！



清川氏

清川 青森の街の歴史と共にある棟方氏は青森にとってそんな重要な存在。残念ながら棟方志功記念館の開館の直前に志功は亡くなってしまったが、庭には彼の望んだ木々を植え、展示室は、あえて小さくして、落ち着いて作品を鑑賞できるようにした。そしてきめ細かく展示替えをする。今も志功の想いをとても忠実に反映している。棟方志功を記念しているわけで、独立してあるということがとても大切だと思う。

野坂 記念館は、志功の身の丈の美術館。折々の植物が育つ庭園と美術館の風情があつての記念館、オモダカの花 藤棚、萩、紅葉。コンパクトでじっくり鑑賞できる

のが素晴らしい。

ねぶた師もハートで生きてやる

千葉 志功は、絵馬鹿と言われた。ねぶたは今でこそ300万人の観光資源。でも、ねぶた師もハートで生きてやる、それが自分の支え。志功さんもそうだと思っている。閉館の知らせを契機として、棟方志功へ本当の想いをもつ同志が申し出てくれる。心が伝わればいい。記念館というのはそういう想いの結晶で、同じ思いを持っている人がいるのだということを伝えたい、それだけのこと。県美のメイキング・ムナカタ展は、棟方志功記念館では収まらないスケール大きな作品も展示されていた。華厳松なんて、もっと引いてみるように展示しても良い。ねぶたも10m20m離れて見るように作れと教えている。志功は大雑把でパワフルなイメージだが、繊細で計算している。



船橋氏

野坂 とても近づいて彫って、その作品が引いて見るとできたものがものすごくバランスが良い。天才としかいいようがない。

千葉 どうしてそんなことができるのか。人間業じゃない。

棟方志功の眼は台風の眼

野坂 志功の眼は台風の眼。激しく動き回っているようだが、中心は晴れて静か。いつも冷静な目つきというものがある。

千葉 不思議だ！とても早い手つきで描いているが、その前に考えている時間というの、100倍ぐらいあるんじゃないか。

船橋 志功談義、話はつきません。ポジティブ志功 志功さんを語ることは青森を語ることにほかならない。棟方志功は青森の誇り。自分は棟方志功記念館は仏壇だと思っている。魂も抜かないでなくすなんて考えられない。もっと志功さんのファンが集まって語る場が増えていくことを願っています。



千葉作龍

第5代ねぶた名人。少年時代から父親のねぶた作りを手伝う。20歳でねぶた師としてデビュー。当時の最年少26歳で初の最高賞・田村麻呂賞受賞する。以来、11回もの大賞受賞。2022年5月現役引退を表明した。

野坂徹夫

画家。バルセロナ市「ホアンミロ・国際デザイン・ドローイング展」出品を機にイタリアなど国内外で個展・グループ展多数。1988年青森県芸術文化奨励賞受賞。文芸書の表紙も多く手掛ける。

清川繁人

青森大学社会学部教授。専門はゲノム配列の多型解析による日本人のルーツに関する研究。イルカの生態に関する研究。青森の忍者研究を立ち上げ、忍者に関する新たな発見、保存活動・観光開発に取り組む。



Topics from Heiankaku

市川透 作 備前焼

CASITA 光には市川透の備前焼が飾られている。

備前は、古墳時代に朝鮮から伝わった「須恵器（すえき）」が発展し、変化を遂げて作り上げられたものといわれている。歴史ある焼き物である。市川の備前は、歴史を踏まえながら、そこに革新をもたらしした。

自由を渴望する魂の叫び。
「スタイリッシュでメタリックな黒や金銀の光彩。その圧倒的な存在感から響いてくるのは、さながら“自由への咆哮”である。市川透は、備前焼をこれまで囚われて

きた概念から、強烈な躍動美をもって、現代の社会と暮らしへ解放してきた。」と評される。

不自由さを幼い頃から意識し、自由への欲求が、形式や伝統を固くなく守ろうとする作風と決別し、誰も挑戦したことのない制作手法や表現に繋がっている。

若いときから常に生きるか死ぬかの狭間をさまよっていたと語る市川によって生み出される新しい備前。CASITA で弔われる魂は、市川の器が放つ力で、自由へと導かれていくことだろう。



青空真 vol.8



わかる

泳ぐ魚を見ても涎は出ないのに、刺身になると美味そう。そこには感覚的な境界線がある。唯一わからない物体が「昆布」。乾燥状態で流通し、水に浸せば元に戻るし出汁がでる。つまり好物なのだが。問題は、海水浴場に流れ着いた昆布だ。日光で乾いても昆布、波に洗われちょっと元に戻っても昆布。……そのまま食べられるのではないか。

人前ではできない。ひとりでやる勇気もない。突然むさぼり喰う姿で近所の子どもたちのトラウマになりたくはないし、不審者通報で「昆布が食べたかった」供述が県警の記録に残るのもできれば避けたい。

海は、普段言葉にできない心の澱を話せる不思議な場所だ。転職や夢を相談されたら、挑んで飛び越えろと背中を押すだろう。いつだって、もう少しがんばろうと思える場所なのだ。

だがこの昆布案件だけは、「ああ、わかる～」と言われるだけで誰も背中を押してくれない。

さいとう じゅんこ

齋藤 純子

Writer/Photographer

青森市在住。

シドニーのフォトスタジオ、青森県内の制作事務所等を経てフリーランス。青森と東北を中心に、全国、青森県内向け媒体の取材・制作に携わる。「カッコトジ」代表

青森のひと

vol.08



ちば さくりゅう
千葉 作龍

ねぶた名人



青森が「ねぶた」、弘前が「ねぶた」となるのは戦後のこと。元々はねぶたで「ねぶた」は、青森の祭を観光の一環で区別するために、後から付けられた名前だから。第5代のねぶた名人千葉作龍さんは、さらっと言ってのけた。

父親がねぶたを作っていた。生まれた時から、ねぶたが身近にあり、自分から制作を手伝うようになった。しかし、父は病に倒れる。翌年、二十歳で大型ねぶたを作り上げ、一本立ちを果たした。26歳で最高賞である「田村磨賞」を受賞する。これは当時の最年少受賞

記録だった。以後6回の田村磨賞、5回のねぶた大賞、計11回の最高賞を受けた。ねぶた師として最高峰の栄誉である。

かつて、ねぶたは、アマチュアが手作りしていたもの。蠟燭の光で、竹で形を組んだ。それが戦後の復興、経済成長とともに照明は電球となり、針金で造形を作るようになった。造形は複雑になり、高度な技術が必要となる。ねぶた師の仕事は専門化して行った。そして多くの観客がねぶた祭にやってくるようになる。千葉さんのねぶた観は、進化論のように明晰だ。

ねぶた師もプロとして先生と呼ばれ尊敬を集めるようになった。千葉さんは、芸術とか先生と呼ばれるのは居心地が悪いようだ。「ねぶたは芸術じゃない。ねぶたは祭。楽しんでもらえばそれでけっこう。でも作り手は、芸術だという気合で作ること。」

戦後、蝋燭から電球、蛍光灯、LED と技術革新とともにねぶたは進化してきた。制作現場で今も変わらないのは、金鳥の蚊取り線香ぐらいのものだと笑う。無類の映画好きでもある。石井

聰互の傑作「爆裂都市 BURST CITY」の泉谷しげるの目にインスパイアされて、ねぶたを製作したこともあるという。そういえば、千葉さんは、ねぶたを絶えず 10m、20m と離れた視線で作るように教えているという。元来はねぶたではなく、ねぶただと教えてくれたねぶた名人は、ロッカーのような飾らず本質を生きる熱いハートと、絶えず自らを引いた視線で冷静に客観視する「台風の眼」を兼ね備えた人だった。



葬儀図鑑

ARCHIVE 08

MOKUGYO
WOODEN GONG【 木 魚 】
MOKUGYO

木魚は、読経時に打ち鳴らし、リズムを整える。また、眠気覚ましの意味もあり、魚が眠るときも目を閉じないと信じられているところから、魚が名前に冠され、しばしば魚や鱗の意匠が施されている。小さな座布団の台の上に置かれ、鈴状の木彫を、先端を布で巻いた撥（バチ）で叩くと、「ぼくぼく」と鳴る。大きさは直径6cm程度から、1m以上のものまである。仏教の禅宗や天台宗、浄土宗などで用いられる。浄土宗では木魚の使用が禁じられた時期もあったが、その後念仏を唱えるときに使用されるようになり、念仏を邪魔しないために裏打ちで木魚を打つようになった。

新しい時代に、新しい景色を。LINKMORE

本年5月オープン
いのりのいおり

本年6月オープン
エンバーミングセンター

リンクモア本社オフィス

+街のオアシス

+LCC(リンクモアコンタクトセンター)

新社屋来年グランドオープン



観光通に面した本社正面 CG



夜は吹き抜けのミニホールが街を照らします



シンボルツリーと木材をつかった伸びやかな
エントランスホール。2階にはお客さまを繋ぐ
LCC（リンクモアコンタクトセンター）機能
などを配置します。



L字型の新社屋の内観。観光通側の右手に
グランドピアノを備えたミニホール。左手
奥は、サロンとオフィスへ緩やかに空間が
繋がっています。

青森県初のエンバーミング（ご遺体保全）施設と安置施設3室、オープンいたしました。



エンバーミング、予想を上回る反響！

青森県初、馴染みのないエンバーミングですが、6月中旬開業以来、多数のご依頼をいただいています。これからも、ゆっくりとした穏やかなお別れの時間をお求めになるお客様からのご要望にお応えしていきたいと思ひます。



こもれば



せせらぎ



さえすり

「いのりのいおり」は、ワンルームタイプの安置室。フローリングに左官職人による塗り壁、シンプルで落ち着いた空間です。奥の壁面にはそれぞれ部屋をイメージした野坂徹夫氏の天使が見守っています。「こもれば」「せせらぎ」「さえすり」、3室同時オープンいたします。

終活カフェ



青森駅前アウガで便利！市役所や図書館、お買い物のついでに

日付 **10月25日(水) 26日(木)**
11月28日(火) 29日(水) 30日(木)
12月15日(金)
1月17日(水) 18日(木) 19日(金)
2月7日(水) 8日(木)

時間 **午前10時から午後3時**

場所 **青森市役所1階 駅前スクエア(アウガ)**

家族葬や終活のご相談

会館でもご自宅でも電話でも大丈夫です。
 お客さまのご都合に合わせてご相談、
 式場のご見学など承ります。

事前予約で相談会においてのお客様に
エンディングノートをプレゼント



一般社団法人終活カウンセラー協会発行
マイ・ウェイ
 ～あなたの人生をもっとよく
 生きるための終活ノート～
 (定価1000円)

相談
無料

TEL **017-735-1407**

*終活のご相談には弊社の終活カウンセラー資格者が対応させていただきます。

めめんと青森

NO.8

2023年10月1日発行

発行：株式会社リンクモア
〒030-0822 青森市中央1-27-10

編集：teco LLC.

本誌からの写真、文、イラストの
無断転載を禁じます。

ご葬儀に関するお問い合わせ

TEL 017-735-1407 24時間受付 年中無休

株式会社 **リンクモア**

〒030-0822 青森市中央1-27-10
<https://www.e-gojokai.com/>



みおくり邸宅 新青森駅	〒038-0003	青森市石江2-7-8
平安閣CASITA新	〒030-0812	青森市堤町2-4-2
平安閣CASITA光	〒030-0821	青森市勝田2-18-4
平安閣CASITA雫	〒030-0944	青森市筒井八ッ橋39-5
平安閣アネックス	〒030-0812	青森市堤町2-4-1
平安閣本館	〒030-0812	青森市堤町2-4-16
いのりのいおり	〒030-0822	青森市中央1-29-2



リンクモアは持続可能な開発
目標SDGsを支援します。